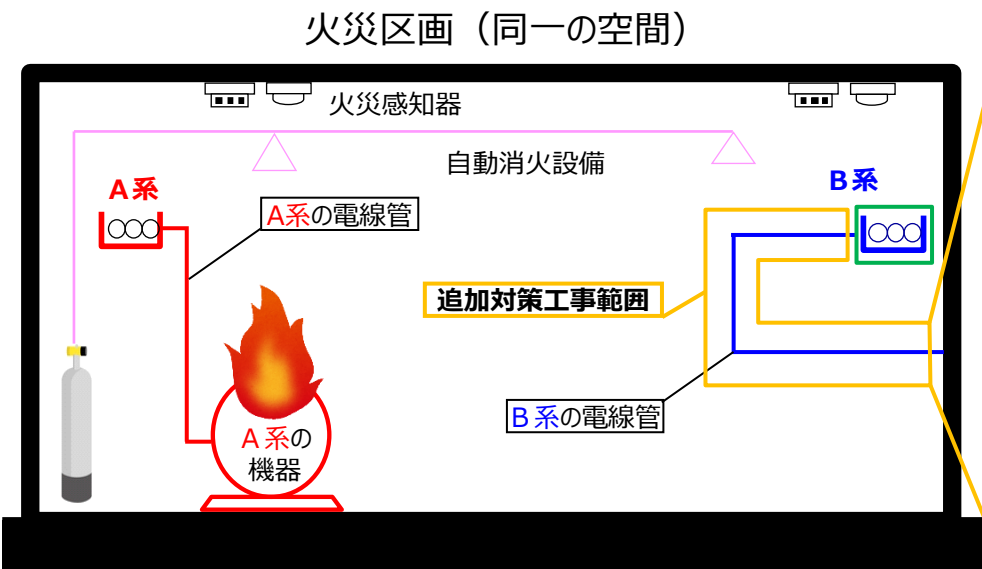


女川原子力発電所2号機 火災防護対策における追加工事について

2023年8月31日
東北電力株式会社

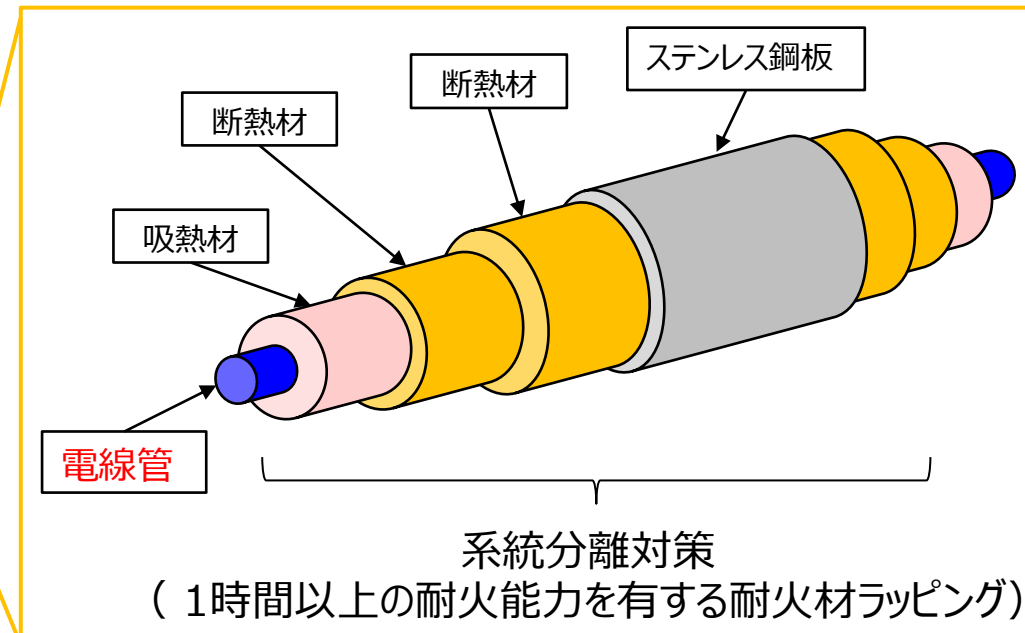
- ◆ 女川2号機における「火災防護対策」は、新規制基準への適合性審査を踏まえ、国から許認可をいただいております、その内容に基づき、これまで対策を講じてきた。
- ◆ 今般の火災防護対策の追加工事は、2022年10月に関西電力より、電線管の系統分離対策※に係る原子力規制庁からの指摘事項について情報提供があり、女川2号機への水平展開の必要性を確認したことから、電線管の火災防護対策に係る追加対策工事を進めている。
- ◆ 当該追加工事について工事工程を改めて精査している状況にあるが、女川2号機の安全対策工事については、引き続き、2023年11月の工事完了に向けて全力で取り組んでいく。

※系統分離対策とは、安全機能を有する機器、ケーブル等について、審査基準に基づき、火災によって同じ安全機能をもつ複数の系統が同時に機能を失わないように対策すること。



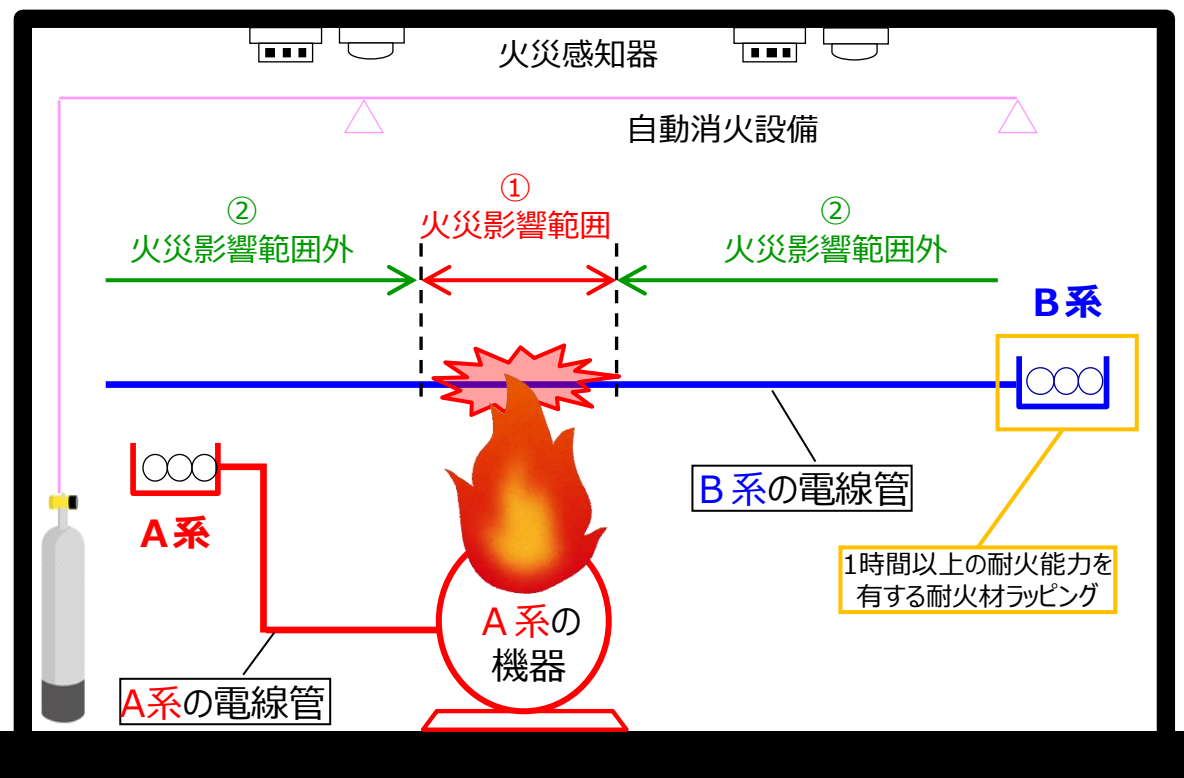
女川2号機の電線管の系統分離対策

(1時間以上の耐火能力を有する耐火材ラッピング+火災感知+自動消火)



電線管への耐火材ラッピング イメージ

- ◆ 関西電力美浜3号機は、原子力規制庁から、ケーブルを収容する電線管について、ポンプや電源盤等の火災が発生した場合に火災などにより影響を与える範囲（火災影響範囲（①））で系統分離対策を実施していない箇所があったため指摘を受けた。
- ◆ また、火災影響範囲外（②）の電線管についても確認があり、系統分離対策として耐火ラッピングが施工されていないという指摘を受け、改めて検討した結果、関西電力は是正処置として計画的に対応することとした。
(2023年3月29日原子力規制委員会報告)



美浜3号機の電線管の系統分離対策イメージ

女川2号機の状況

- ① 「火災影響範囲」には異なる系統の電線管はなく、対象箇所なし。
- ② 「火災影響範囲外」の電線管は、当社の考え方を整理※した上で、火災防護審査基準に基づく火災防護対策としての耐火材ラッピングは必要ないと判断していた。

※ 当社の考え方

- 電線管は金属材料で覆われており、火災が発生しても内部のケーブルは直接火の影響を受けない。
- 電線管内のケーブルは難燃ケーブルを使用しており、ケーブルが発火しても自己消火する。
- 同じ部屋のポンプや電源盤から火災が発生しても、感知・消火設備により火災感知および消火が可能。